

## 「悪霊に取りつかれた子のいやし」

2015年07月15日

ルカによる福音書9章37節～43a節。翌日、一同が山を下りると、大勢の群衆がイエスを出迎えた。そのとき、一人の男が群衆の中から大声で言った。「先生、どうかわたしの子を見てやってください。一人息子です。悪霊が取りつくと、この子は突然叫びだします。悪霊はこの子にけいれんを起こさせて泡を吹かせ、さんざん苦しめて、なかなか離れません。この霊を追い出してくださるようにお弟子たちに頼みましたが、できませんでした。」イエスはお答えになった。「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまでわたしは、あなたがたと共にいて、あなたがたに我慢しなければならないのか。あなたの子供をここに連れて来なさい。」その子が来る途中でも、悪霊は投げ倒し、引きつけさせた。イエスは汚れた霊を叱り、子供をいやして父親にお返しになった。人々は皆、神の偉大さに心を打たれた。

主イエスは3人の弟子たちに栄光に輝く「山上の変貌」を見せ、「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」という声を聞かせた。弟子たちは言葉を失い、下山して来た。すると、大勢の群衆が主イエスを出迎えた。その中の一人の男が大声で叫んだ。「先生、どうかわたしの子を見てやってください。一人息子です。悪霊が取りつくと、この子は突然叫びだします。悪霊はこの子にけいれんを起こさせて泡を吹かせ、さんざん苦しめて、なかなか離れません。この霊を追い出してくださるようにお弟子たちに頼みましたが、できませんでした。」父親の言葉から、一人息子は「てんかん」の発作を起こしていたと思える。てんかんは精神病の一つと見られていたが、今は脳にある傷が発作を起こすと原因が解明されている。適正な薬を飲めば、日常生活を支障なく過ごすことができる。

前々任の教会で、鉗子分娩によって脳に傷を受け、てんかん発作を起こす子どもがいた。夏季学校キャンプに連れて行った時、体が硬直する発作を起こし救急車で病院に運んだ。両親はその子のことで、苦しい経験をされた。現在は50歳を過ぎ、施設で穏やかに過ごしている。訪ねると、懐かしく昔の教会生活の楽しかったことを話す。

主イエスの時代、てんかんは悪霊に取りつかれたと理解されていた。父親の苦労が察しられる。いやしの権能を持つ弟子たちにいやしを求めたが、できないので、下山して来た主イエスに懇願した訳である。主イエスは「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまでわたしは、あなたがたと共にいて、あなたがたに我慢しなければならないのか。あなたの子供をここに連れて来なさい」と嘆かれ、子どもを連れて来るように命じた。その子が来る途中、発作が起き、ひきつけさせた。主イエスは悪霊を叱ると、悪霊は出て行った。いやされた子どもを返された父親はどれほど喜んだらうか。これを見た人々は、主イエスを通して現された神の力の偉大さに心を奪われた。福音書は、主イエスは悪霊を追い出し、いやしてくださる神の子であると告げている。

教会員から、姉が末期の胃癌で余命いくばくもない、洗礼を受けて召されたいと言っているのを、訪ねてほしいと言われた。彼女は清々しい顔で迎え、私の言葉を真っ直ぐに受け入れてくれた。そして、彼女は「お腹に手を置いて祈ってください」と言われた。聖書を読んでいる方だと思った。彼女は洗礼を受け、平安に召されていった。以来、さしきわりがなければ「私はイエス様ではないけれど、手を置いて祈ります」と患部に手を置いて祈っている。いやしの権能を持たないが、体に触れての祈りは親愛の祈りとなる。